

# 大鹿村議会だより

第21号 平成29年10月16日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成29年9月

## 大鹿村議会9月定例会

平成29年9月大鹿村議会定例会が9月8日から19日までの12日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告1件、付議事件13件、議員発議3件で、すべて原案どおり可決されました。請願・陳情は請願1件、陳情1件で、請願1件は採択されました。

### 報 告

報告第1号 平成28年度決算に基づく健全化比率の報告について

▼実質赤字比率、連結実質赤字比率とも該当なく、実質公債費比率3.4%、将来負担比率も該当なく、健全です。

### 付議事件

議案第1号 大鹿村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼18歳以下の子どもの医療費について窓口で現物給付（無料化）、一部負担金のみとなります。

議案第2号 平成28年度大鹿

村一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第3号 平成28年度大鹿

村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第4号 平成28年度大鹿

村立診療所特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第5号 平成28年度大鹿

村営水道特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第6号 平成28年度大鹿

村介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第7号 平成28年度大鹿

村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

▼平成28年度の決算については「広報おおしか」をご覧ください。

議案第8号 平成29年度大鹿村一般会計補正予算（第2号）について

▼除雪委託料、歌舞伎切手シートなど。

議案第9号 平成29年度大鹿

村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について

議案第10号 平成29年度大鹿

村立診療所特別会計補正予算（第2号）について

議案第11号 平成29年度大鹿

村営水道特別会計補正予算（第2号）について

議案第12号 平成29年度大鹿

村介護保険特別会計補正予算（第1号）について

議案第13号 平成29年度大鹿

村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について

### 請 願

1、廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の採択を求める請願書  
▼採択されて意見書を提出

### 陳 情

1、「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について  
▼議員発議で意見書を提出

### 議員発議

発議第1号 廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の提出について  
発議第2号 道路整備予算の拡充及び道路整備事業に係る補助率等の嵩上げ措置の継続等を求める意見書の提出について  
発議第3号 「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について

## 一般質問



東村邦子議員

### \*西下トンネルに誘導員配置の要望

**質問** 夏休みを挟み観光客の方々を含め、法事などで村外からの通行者何人かから話を聞くことができた。西下トンネル内でダンプと続けてすれ違い、怖くて途中で止まってしまった、あるいはクラクションが大きくて驚いてトンネルの手前でストップしてしまつたなど、不安の声が西下トンネルに集中して聞かれた。村内の高齢者ドライバーも西下トンネルをスムーズに通る抜けできれば、走行の負担が大いに軽減するとおっしゃっている。

西下トンネル通り抜けの台数制限やトンネル出入りのクラクション合図の必要以上の

回数を抑えるために、誘導員の配置は必要ではないか。

**村長** 今までもリニア対策委員会、連絡協議会等でも指摘されているところだ。ご提案の誘導員の配置ということに限定すると、4月の桜祭りのときには約2週間誘導員を配置させていた。スムーズに通行できたと思っている。村としても、さくら祭りの時の2週間ばかりでなく、これからまだ四徳渡トンネルの方の掘削は続くので、本年度末くらいまで何らかの有効な対策を取ってもらふ必要があると考えているところだ。誘導員の配置とか、大型車両を感知するセンサー、電

光掲示板による交通規制等、どんな方法があるかという研究を今している。

**質問** 西下トンネルの誘導員



西下トンネル

配置ばかりでなく、照明に關しても村民から要望が出ている。照明をワンランク上げるだけでも入り口からの進入車両の影が早く確認できるのではないか。一つ一つ丁寧に問題の箇所を協議しながら、村民がスムーズに通勤、通行できるように今後も一層の努力をお願いしたい。

### \*リニア工事残土受け入れ、村内拡大の可能性

**質問** 前回、松川インター大

鹿線改良工事の道路状況の質問の後、村長から小洪線のダンプの往来に村民が不安を感じているなら、それを解消するために村内で少しでも残土受け入れ量を増やし、交通量を減らす方向を考えていく必要があるという発言があった。そのために個人所有の小規模な埋め立ての申し込みを今までJR東海側には提出していなかったが、それを再度小規模埋め立てに關してもJR東海に提出したと確認した。JR側から具体的な埋め立てに關してどのような反応があったかお聞きしたい。

**村長** 村内に残土処理する場所があれば松川インター大鹿線を通行するダンプの数を減らせるので何とかしたいということとは従前から何回も申し上げている。民地の箇所については、平成26年の7月、8月頃、個人所有候補地を募集した。その結果、確か2か所あり、1か所はもとと無理だろうという場所だった。もう1か所は土量的に非常に少ないこともあり、具体的にま

だJR東海にこの場所をという提示はした記憶がないが、こういうものがある程度のはしたかと思う。その程度で、今のところその後の募集等はしていない。

**質問** 先日議員の中での打ち合わせがあり、意見があったが、分杭峠からの152号線の北入から北川にかけて、山側の窪地や崩落箇所の地盤補修に残土を利用して、JR東海に拡幅工事を要望できないか。152号線の改良を県や国の動きを待つだけではなく、村からJRに呼びかけて拡幅工事は可能性があるのではないかと意見も出た。

小規模だけでなく、残土を積極的に受け入れていくということを考えれば、大型埋め立てを考えてはどうかという意見もある。具体的には鳶ヶ巣の土留め用の盛土を考えていつてはどうかというものだそう。鳶ヶ巣の状況を見ると本当に可能性があるのか、安全なのか、大きな疑問が残るが、例えば専門家の技術的な裏付けをしつかり取ってい

ただいて、納得いく内容で検討していく方法があるのではないか。結果だけ知らせて即実行ではなく、将来にわたり村の安全を左右する内容は村民の理解と意見、知恵も踏まえて決定していくことを望む。

**村長** 国道152号線のお話

があった。候補として挙げる  
とすればということは最初からあり、ある程度の机上の調査等はしたつもりだが、北川については土地の所有関係が複雑だし、当然のことながら河川関係のルール、また災害を受けたということで、かなりの部分が保安林の指定をされている。なかなか、さあと  
いつて手が付く場所ではなく、難しいと思っている。

それから鳶ヶ巣の盛土についてだが、あそこは重要な保安林指定で現在事業が行われている。どこに盛るかという話がなかったので何とも言えないが、現在崩壊が起きている所をへこんでいるから埋めればいいのではないかという話は私も最初は思ったが、とてもではないが、それは全く許

されない。地権関係、いろいろな法律の絡み等あるので調査をした中で、可能となればご提案申し上げることがあるうかと思うが、現段階オープンにして進めたいという所まではまだ行けない状況だ。



齋藤 栄子 議員

### \* 鹿塩地区館改修

**質問** 公共施設等総合管理計画

画の中にも「鹿塩地区館は58年に建てられた施設であることから、今後建て替等の更新費用負担を軽減するためにも、施設の適切な維持管理を行い、必要な修繕を実施していきま  
す」と書かれている。少しずつ修繕していただければ大丈夫  
夫と思っていたが、8月29日、全国瞬時警報システム（Jアラート）で近くのできるだけ頑丈な建物や地下などに避難するようにとの警報が村内に

鳴り響いた。そのとき私の頭の中に浮かんだ避難所は鹿塩地区館だった。しかし、鹿塩地区館にも大きな炊き出し用の釜を買っていただいたが、鹿塩地区の団員の方から地区館の台所の流し台は洗い場が小さく、大釜をどこで洗うのかとの指摘をされ、確かに洗うのは大変、それに大量の洗い物は無理とご意見をいただいた。そのほか地区館に対する不便さは増える一方だ。

また歌舞伎の衣装部屋を思うとき、大切な村の歴史にもなる品々、現在の部屋は道に面しており、大きな窓がある。爆風、水害で被害が大きくなるのは大きな窓のある場所と聞いている。近年のあらゆる状況から考え、避難所として、文化財を守る場所として、地区館は大改修が求められるのではないかと考える。

公共施設の15%削減を大鹿村も考えておられるようだが、村長は文化施設をお考えにもなっておられる。鹿塩地区館を「地（知）の拠点」、文化施設にとの考えをお持ちだろ

うか。

**村長**

今議会冒頭のご挨拶で、あのJアラートの情報について村内で満足する場所はあるのかというと、多分ないのではないかと申し上げた。そう  
思って比較した場合に、鹿塩地区館ならばある程度のこと  
は、他の場所よりは防げるだろうと、Jアラートの関係ではそういうことしかないかな  
と思う。その他に、相当の人数を収用できる、耐震性がある、人・物資の輸送車両の進入が可能で、バリアフリーの  
対応もできていると思っ  
てるし、調理も可能、備蓄倉庫も直近にあるので、村の中で  
現在考えるについては、避難所として適当であると答えさせていただく。  
大改修、「地（知）の拠点」というお言葉が出てきたが、現在の計画ではそういうものは持ち合わせていない。「地（知）の拠点」という言葉は初めて聞くので、今ははつきりとした答弁はできない。



河本明代 議員

### \* 図書室の充実について

**質問** 平成24年に図書室建設

検討委員会が設置され、当時鹿塩地区館の図書室にあった蔵書を移して交流センターに増築・併設する案が検討された。しかし、交流センターではスペース的に狭いことなどから施設の新設を求める答申が出された。その後の一般質問で、答申を受けての考えを伺ったが、新設の場合には初期投資や人員の課題もあり慎重に扱っていく必要があるというところで、現在は暫定的な形として、交流センターのロビー等に一部の本を置き、平日は本を借りられる状態になっている。とはいえ、スペースが余りに狭く、多くの本はろくべん館の倉庫に眠ったままだ。いつまでこのような暫定的な形が続くのか、早期の充



実が切に望まれる。

図書室については、新たな文化施設に併設するという考え方もあったかと思う。後期基本計画においては29年度、30年度に「施設の検討」となっていた。村としては、現在、

図書室の充実に関してどのような方向で考えておられるか。今年度建設される道の駅については、観光客だけでなく、村民の日常生活に必要な機能を集約・連携した小さな拠点としていくようなお考えかと思うが、そうだとするならば、図書室についても道の駅や交流センター付近の方が多くの村民が利用しやすい望ましいのではないかと考えるが、いかがか。

**村長** 人が集まりやすい場所として道の駅は計画を進めてきている。ただ、図書室については今計画中の建物には設置できないのはご承知かと思う。今後交流センターを中心に、改めて設置について研究していく方がいいのではないかと考えている。時期だが、計画は29年度、30年度という

幅があるので、その中で内部検討から始めて研究をしていきたい。

## \* ユネスコエコパーク 普及啓発のための 人材等について

**質問** 第4次総合振興計画の後期基本計画においては、平成26年に南アルプスがユネスコエコパークに指定されたことを受けて、中央構造線博物館について、ジオパークの学習拠点だけでなく、「南アルプスユネスコエコパークを知る施設としての機能を高め」と記載されている。しかしながら、現状の施設、人員のままではユネスコエコパークの内容までカバーするのは非常に難しい。

自然環境、生態系の保全という面では、やはりある程度専門的な知見を有する人にかかわっていただく必要があると思う。自然保護条例に記載されていて任命されてこなかった自然保護員のような人は必要ではないか。

ユネスコエコパークの管理

運営計画の策定に合わせて自然保護条例の見直しを考えるとということだったが、計画の策定状況は現在どうなっているか。

静岡市のユネスコエコパーク管理運営計画では、自然環境の保全、調査と教育、地域の持続的な発展、理念の継承と管理運営体制の構築の4つが挙げられていた。普及啓発、利活用等を考えても、新たな人材の登用、育成が必要ではないか。

**村長** 南アルプス自然環境保全活用連携協議会の大きな取り組みの1つとして、ユネスコエコパークの管理運営計画の策定を今年度中という目標が出され、そのことに向かって、南アルプス市を中心に取り組んでいる。これは基本的に今年度中に協議会にも目指す方向を示すことになっているので、今後素案等の提示がなされてくると思っている。非常に壮大な計画や指定を受けているわけだが、現在の大鹿村の人員等を考えていただければ、具体的に細かい部分まで、なかなか取り組み

はしていけないという現状がある。これから中ができてくるのを見る中で、実際に大鹿村としてどのような取り組みが必要になるかをしっかりと見定めることが大事かと思う。

また、先進である南アルプス市、静岡市と一緒に頑張りますとは正直言っている。他の市町村等の状況を見ている中でしっかりと検討していくことであろうと思っている。

**質問** 全体の管理計画に合わせて、村の中の管理計画みたいなものも作ると以前お聞きした。それに当たっては、例えば地域おこし協力隊など、いろいろな形で、村の中で一人中心になってくれるような人を登用することはできないかと思った。

現在、大鹿村では長野県の自然保護レンジャー、環境省の自然公園監視員、高山植物等保護指導員等をされている方、狩猟動物については鳥獣保護員の方もいらっしゃる。何年前にはグリーンパトロールという形で村の腕章を付けて回られたそう。そういう

形で村の腕章を付けて時々パトロールするような方がいると良いなと思う。

**村長** まず村の管理計画を作ると言っていたではないかという話だが、現状の職員の体制の中で細部にわたってまでの取り組みは、できる状況ではないこともぜひご理解いただきたい。いずれにしても、上の計画がある程度見えなければ、下の計画は作りにくい。

自然保護のためのパトロール、保護員等のお話があった。確かにおっしゃる通りかとは思いますが、なかなかそこまでのことが取り組めるのか、具体的に即どう取り組むということとは言いにくい。管理計画と併せて考えていく必要があるかと感じている。



秋山光夫議員

## \* 公共施設等総合管理 計画について

**質問** 国は2014年に、人

口減少社会を踏まえ、老朽化が進む公共施設等の現状を把握した上で、基本的に再編や長寿命化を行い、自治体の負担の軽減や支出の平準化を図ることを目的に、各施設の現況や管理に必要な経費、将来の人口推計等をまとめた総合管理計画の作成を要請した。

また計画の実効性を確保するため、可能な限り数値目標を定めるよう求めた。新聞報道によれば、長野県77市町村中、48市町村が縮減目標を設けたが、29市町村は見送ったとのことだ。

大鹿村も公共施設等総合管理計画を作成し、縮減目標を設定している。ここでは試算ソフトを活用し、公共施設の建物について今後40年間で必要な改修、更新費用は108億円、年平均で2.7億円と試算されている。あと、インフラ設備でも道路、橋梁、水道と非常にびつくりするような金額が提示されている。公共施設の中でも授産所は昭和53年の建築、保育所は54年建

築と、かなり老朽化が進んでいる。橋梁は供用年数50年以上の橋が21橋、水道、道路は毎年老朽化に伴い補修に追われている状態だ。

国は今後2020年までに種類ごとの個別施設の計画作成ということで、何を壊して、何を直して、何を造るかを具体的に示してほしいという要請をしている。県や市町村の中でもホームページで公表しているところがあるというが、大鹿村ではどうか。

**村長** あの新聞記事に31年度という表現があったが、これは2031年度だ。要するに平成43年度を目標にあの計画を作れという指示で作成させていた。20年までというのは、現在2017年なので3年の間に具体的な物を見せという意味かと解釈させていた。

この計画の策定の考え方は、基本的に推定人口が基本になる。大鹿村は過去からずっと人口減少してきたので、将来を見据える中で、今までの人口問題研究などを見ても、減

少していくのはやむを得ないのかなと思う。なので、一人当たりの必要な公共面積を考えた場合には減らす方向になる。ベースは人口によって策定しているので、15%くらいは減るだろうという計画を立てたわけだ。ただ、人口が減るからといって役場の面積をその分削れというのは無理な話だ。現時点でどこがどうなるかは明確にはできない。

当然のごとく既存の建物は老朽化してくる。また、いろいろな変化の激しい時代なので、機能的に時代に合わない物が出てくれば廃止や規模の縮小は当然出てくる。新たに造らなければならないものも出てくるのではないと思う。例えば保育所などはもう計画を作っていく時期に来ているし、授産所についても規模はどうなのかという検討はもうもろしているところだ。2020年までには示せる部分はあるのかと思う。

**質問** 村民の複数の皆さんから、何を15%縮減するのか、他町村でホームページで公表

しているところがあるが、大鹿村ではやっているのか質問を受けた。今後住民にとって不利益にならないような内容のものは、目標を住民に公表することで行政の透明性確保が重要だと考えるので、十分検討して行っていたきたい。

**村長** 今後どの施設をどうしていくかというのは、当然のことながら、どの時点で公表するという課題はあろうかと思うが、住民の皆様にご相談会なり何なりでお話をしたいかなければいけないことだ。決して内部でそのままストレートということはない。

**総務課長** ホームページについては15%といってもまだ個々の施設等設定しているわけではないので、公表していない。

**質問** 総合管理計画の表において、第4次計画が24年3月から33年度ということ、その下に「適宜見直し」と書いてあるが、通常はどのくらい前から見直し作業が始まるのか。

**村長** 総合振興計画は10年ごとに立てていく。その中で、

前期の5年間、後期の5年間、なおかつその中を3年ごとに見直していく。時代の動き等を見れば3年ぐらいでローリングして回して見直していくことは、基本的に大事なことだと思つて進めている。



北島千良穂議員

### \*村民全員が支え合える道の駅を

**質問** 袋小路の大鹿村では、四季を通して商売を持続するのはなかなか難しい。道の駅をうまく経営するにはさらに幅広く深く研究していただき、素晴らしいものにしてほしい。

村民全体が支えるものにしていかないと、やはり問題が起きるのではないか。幾つかの提案をさせていただくので、さらに深く検討いただきたい。

1、生活店舗は第3セクターで経営をしようだが、村民に広く増資を呼びかけたらど

うか。村民一人一人が守る意識を持つために必要ではないかと考える。

2、今現在商工会を中心に行っているふれあい商品券が1年を通して使えるようにしたらどうか。村内商業との連帯施策はないのか検討する必要があると考える。まさに支え合いの第一歩ではないか。

3、買い物に行くならば道の駅へ行きたくなるような施設を造ってほしい。例えばふれあいセンター、商品豊富、子どもから老人までが楽しめる施設等々を考えてほしい。このほかにもまだたくさんあると思うが、幅広く深く研究していただき、村民全体が支え合える道の駅をつくってほしい。

**村長** 一番については、6月定例会で同様のご質問をいただいている。そのときはあくまで有限会社秋葉路の株主という立場で、増資でなく現体制のままでいいのではないかと考えていると回答させていただいた。6月定例会の後、秋葉路の株主総会が開かれた。

経営側から現体制のまま取り組みたいという方向が示され、出席者から特に異論なく、現体制のままで進むこととなっている。私もそう考えている。

2点目だが、ふれあい商品券に最初に取り組んだときの記憶として、有効期間が6か月という定めがあると聞いていた。長くするのは非常にハードルが高い。村も単年度で決算を打つ。村議会を通つて予算が決まって、商工会はそれを受けて、事業の申請。金券なので許可を取らなくてはいい。その手続き、券の印刷、さらには使った後、集約して決算を打つて、村に報告をして補助金交付を受けなければ締まらないわけだ。その間に商工会の決算があり、村の決算がある。となると、やはり通年やるのは非常に困難で、考えられないと思うている。ただ、商品券を通年として、それが道の駅にどう反映するのかということもある。商品券は村の商店みんなに使える。道の駅と絞った場合にどうなのかと感じた。

3点目に、行きたくなるような施設ということでご質問があった。すべてこの話は村民の方が多くそこへ行きたくなることを目的に始めたことだ。買い物はもちろん、食事、観光的には小渋川から大西公園の眺めとか、さらに川へのアプローチも考えている。もう一つ、村内バスもこれから実証実験等することになつてはいるが、ここを必ず回るように計画を立てたいと考えている。こういう商店等、いい悪いは個人個人の感性でいろいろあるうかと思うが、想定とすれば多くの人が利用されることを目指している。村民の方が行つてみて、自分の考えとは違ふとは思つても、それはそれとして置いておいて、いいところを見て使っていたかどうかをぜひともお願いしたい。

## 議会報告会&懇談会を開催します！

今年は高知県大川村での町村総会の検討や喬木村の夜間議会の検討など議員のなり手不足を背景に各地で町村議会のあり方が議論されています。

大鹿村では無投票にはなってはいませんが、今のままで大丈夫でしょうか？

リニア工事が始まり、大型工事車両が増加しています。また、道の駅の建設、ケーブルテレビの光回線への移行など、課題はたくさんあります。

ぜひ多くの皆様のご意見をお聞かせください。

ご参加をお待ちしています。

**日 時：11月26日(日) 午後2時～ 鹿塩地区館**  
**11月28日(火) 午後7時～ 交流センター**